

Weekly コラム

平成 28 年 6 月 14 日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会) Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

業界変革の時

今、タクシー業界が、サービスと乗車率の向上を目指して変化し始めています。東京ハイヤー・タクシー協会では、タクシー配車アプリ「スマホ de タックン」が開発されました。タクシーを呼びたい場所をスマホの地図上で指定し、車種や時間を入力すればタクシーが来るという仕組みです。無線配車と似ていますが、知らない土地でも簡単に住所を伝えることができ、アプリによっては決済機能も付いているため便利です。

ただ、このアプリの都内での普及率は流しのタクシーと比較しても 9 対 1 というのが現状です。そのため地方での普及も目指していますが、地方では自家用車を用いてタクシーよりも安価に利用客を運ぶライドシェアが徐々に注目を集めています。昨年 10 月の国家戦略特別区域顧問会議で、安倍首相がこれを後押しする発言を行なったことが大きな要因です。タクシー労使は反対の声をあげていますが、利便性とコスト、安全性が確保されれば、利用する側としては申し分のないことです。さらに、このライドシェアよりも画期的なプロジェクトが 2020 年の運転開始を目指しています。

それが DeNA とベンチャー企業 ZMP との合弁会社「ロボットタクシー」です。過疎化や高齢化が進む地域の「足」となることを目指しています。地方では、過疎化の影響から会社の人員集めや集客も難しいため、コスト面でどうしても

撤退してしまうのが実情でした。ところが、「ロボットタクシー」は、乗務員のいない無人タクシーで、携帯電話で指定した場所に無人タクシーが来て、最短ルートで目的地へ向かうためコスト面はかなり軽減できます。ちなみに、平成 26 年度国土交通白書によると、平成 19 年度以降の路線バスは約 10,206km、鉄道は約 186km の路線が廃止されていて、地域の足というべき公共交通網が縮小しているため、今回のプロジェクトは画期的だと言えそうです。

今年の 2 月末から神奈川県で実証実験やサービスの検証などが始まり、地方自治体からは「サービスの展開をしてほしい」という声が相次いでいるそうです。今の道路交通法では無人運転は想定外ですが、安倍首相から 2017 年までに制度やインフラ整備をする旨の回答も得てあります。まだまだ有人タクシーが有利ようですが、既存のタクシー会社との業務提携から無人タクシーが市場で共存することは十分に予想されます。タクシー業界に大きな変化が訪れようとしているのかもしれません。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、

skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。